(明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可)(日刊)(月曜及祭日の翌日休刊) 明治四十二年十二月十四日 (火曜日) 第二百八十七號 (一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年 紀元二千五百六十九年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

寄書

無題

南山生

▲近頃面白き茶番狂言は所謂一進會の合邦騷に有之候、排日とか親日とか云ふ韓人の悉くが其裏面に於て夫々魂膽を有するは今更言を要せざる事ながらこれが傀儡師となりて自腹を肥やさんとする邦人に至つては寧ろ憫むべきの至りに候、而かも人形の綱は美事に切れて、甘い飯にあり付かざりしに至つては何ともハヤ氣の毒千万に御座候

▲日本人の小策士が韓人を煽てゝ金儲けを爲さんとし、之れを利用して政權に近か付かんとする韓人、其又小策士の旅宿に出入して提灯を持ち節季を都合能く仕舞はんとする餓鬼共あり、實に世は樣々宛かも走馬燈の如き者に候

▲合邦と合併とは大に其實を異にせることは勿論なるが、母國新聞紙抔は大分之れが解釋を履き違へ居る樣子相見へ、甚しきに至つては、折角朝鮮人が忠良なる日本臣民とならんとするを何を以て躊躇する杯とトテツも無い言論を敢てせる向きも不尠候、中々以て朝鮮人は左樣な馬鹿は居らず、他日の併呑を恐れて己れ進んで合邦を主張し恰かも獨逸聯邦の如き者となさん考へにて其ヅルサ加減見上げた者に有之候、

▲お互日本人はコンナ馬鹿氣た事に嘴を容れず、當面の問題たる殖産興業にでも盡力す可きかと存候、其れにしても東拓會社抔は何を愚圖〱して居るのだ、永遠〱と云ふ呑氣な聲も大分聞き飽いた樣に存候、

雜報

米大統領の教書

米國大統領タフト氏は本日同國第六十一議會に於て年次の教書を朗讀したり該教書中極東に關する事項左の如し

米國政府は極東において一定不變の政策を保持し機會均等主義を主張し支那帝國の保全に對し最も細心なる注意を拂へり而して右に關する政策は千九百三年の條約により東西兩洋の列强によりて盟約せられたる所なり而して清國は關稅を適度の比率に高め之に應じて厘金稅を廢止せんと企て且通貨の改良を行はんとす此等の改良は清國の内地におけると同じく又外國の商業に對し明かに利益を與ふるものなるが故に米國は此等諸計畫の實行を容易ならしめんことを企つると共に各條約國に對して亦必要なる從順を望みつゝあり目下清國の厘金稅收入は同國に於る大鐵道の敷設計畫に關して外國銀行家の手に抵當として書入られ居るが如し而して此鐵道公債を有せる各國政府および其國民等は目下問題となり居れる清國の諸改革をば解決の運びに至らしめんとする點において或直接の利益を有せるものたるや明なり此鐵道公債を有する所以のものは關係列强が清國と協力一致して行ひつゝある門戸開放政策の實際的なる又眞個の適用たることを示すものといふべく從つて清國行政の改革に米國の干與することは其改革の事實として表はるゝに際し國民的の一大利益たるべく思惟せらるゝものにて我が公明なる政策は此機會の逸すべからざることを促し且必須欲ぐべからざる手段たるを自ら示せり而して大富源を以て世界に信用ある米國大銀行家等は恰も政府の贊成すると同一條件を以て即時鐵道公債を分擔するに一致せり其主たる條件は米國の鐵道材料は他の借款關係國と同一量を供給せられ鐵道建設に際し同一の注文を受くるにあり喜ぶべきかな我米國は此鐵道參加につき數箇月の交渉を經て終に大公道の商業に斯の如き大部分を參加するの權利を獲得するに至らんとす斯の如き活動は我貿易に眞正の刺激を與へ極東における我政治主義、政治歷史に事實上の一紀元を表彰すべきを信じて疑はず

清國政府が我が合衆國政府の免除せる北清事件償金の一部を基金として我國に其學生を留學せしむるの決心は既に其目的を達するの法を完成したれば近く清國學生の大集團は來つて我諸學校及び大學に入るべく此等の青年が業を終りて其本國に歸るの後一團体をなして其國の進歩的開發の事業に努むるの結果幸福を增進するは何人も疑はざる所なり

今春上海に開催されたる阿片會議は米國政府の發起に依りて起り其結果は我政府に廻附されたる報告の示すが如く清國は吸煙の害惡防遏に對し著しき進歩と賞讃すべき努力とをなしたり我政府は此惡弊改善に協力するも之がために商業の利益に干渉するに至らんことを恐れたり若しそれ鴉片問題と關係ある種々の事項に至りては我國は我國における阿片及び之を材料とする品物の製造販賣、使用に對し予をして行政上出來得る限り嚴格なる取締命令を發せしむるに至れり

本年九月三日の日清協約中一見公衆をして著しく疑團を生せしむる一項あり即ち或方面にては之を以て日本が南滿洲鐵礦及び安奉鐵道の沿線において鑛山採掘權を獨占し而して此廣大なる土地より條約上當然享受すべき米國の事業を除外するものと信ぜられたり併ながら該協約及び之に關聯する公文書類を精査の結果我國務卿をして日本に斯の如き獨占的權利を企圖するの意思なく又之を遂行せんともせざりしとの結論に達せしめたりシカも議論餘りに喧傳せらるゝを以て我政府は日清兩國政府に向つて質問を發し兩國官憲より其條項は米國も亦共通の權利ある機會均等に對し何等抵觸するものにあらずと保證したる回答を得たり

日米兩國の歷史的關係は平常の如く極めて親善なり日本の代表者として曩に同國皇族の訪問あり今現に日本の有力なる實業團体は日本において其代表者が歡待されたる太平洋沿岸商業會議所の賓客として渡米せり、斯の如き彼我往來の結果は太平洋の商業に貢獻ある所大にして兩國互に尊敬する相互の歡契を鞏固ならしむるを疑はず

合衆國に渡來する勞働者の共同的制限に關する千九百八年の協定は本問題に滿足なる成行を呈したるを立證したり而して千九百十二年に滿期終了する

和歌募集

勅題「新年雪」

選者 九皐館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月二十日、發表は四十三年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮て投詠せられんことを希ふ

十一月廿日 本社編輯局

◎新刊紹介

●國民評論(二) 國民之友時代に健筆を振ひ錦省を著はして名をなせし湖處子外二三子の經營に係る雜誌にして論説に史傳に海外評林に時事雜錄に文苑に批評に異彩の大文字あり殊に別號の續きの經濟學者戶田博士の取引所問題は熟讀に値す此調子にて進まば美事なる雜誌たるを失はず△十五錢△東京市赤坂區青山南町六國民評論社發行

日米通商條約の改訂に關しては兩國既に之が研究に努めつゝあり云々

第五十四席

伯山改 田松鯉神口演

白縫主從四人は成なべく人目に注かぬやう道を急ぎまして、やつて參つたのは遠州の濱名郡松島村と云ふ海邊であります、此の處は有名な遠州灘の荒海でありまして、東海道筋よりは二里許り南の方への在であります、天龍川が海へ注ぎまする川口であります、何故白縫主從は此の松島村へ態々やつて來たかと云ふに、元太宰府に爲朝が盤つて居られました時分に下僕として使ひました藤助と云ふ男が此の村の者でありまして、或る年老父の病氣のために暇を乞ひ國へ歸つた、なか〱正直な男でありまして、其の男が何うして九州へ參つて居つたかと云ふに、駿州の清水港の舟主から賴まれて舟へ澤山の綿を積んで四國邊へ持ち參る途中、風のために舟が漂流して筑前へ着いた時爲朝の御家來に助けられて大變に情けを蒙つたので、其の恩を忘れては相濟まぬと、國へ歸つてからもわざ〱飛脚に書面などを持たして爲朝の機嫌を聞きに寄越す、此のことを白縫が思出して兎に角藤助の家へ尋ねて往かふと云ふので、わざ〱松島村へやつて來た、事に依つたら此の村から大島へ渡らうと云ふ考もあつたのでございます

藤助の家は福泉寺と云ふ寺の門前で直ぐ分つた、一寸小奇麗な家だ、表から喜平次が 喜「御免」藤「是はまア何んと御珍らしいことでございませう、喜平次樣で居らつしやいましたかさア〱何うぞ此方へ……」喜「御主人樣も御一所で……」藤「是はまア能うこそ御出でになりました、豫て薄々御噂を聞いて居りましたが……まア何うぞ見苦しい處ではございますが、御上りなされて下さいまし」やがて洗足の水を盥へ汲んで參る、白縫主從は足を洗つて上へ上りまして、久々の挨拶を致します

藤助は女房お浪と二人暮して子と云ふ者がないから田舍とは云へ小奇麗になつて居る在のとで隣も遠いから少し位大な聲をしても世間へ分りはしない喜平次より御曹司の有し次第を事明細に話しまして今度大島へ渡るに就て若し出來るならば、此の浦から舟を出して貰いたいと少しも隱すことなく賴みました 藤「へエ宜うございますとも、此の村の漁夫を三四人撰んで舟を乘出せば大した暴風のない限りは大島位なんのことはありやしません、處が明日は此の村に少々取込みがありまして、少し大騷ぎをしなければならないので、何うか四五日御遊び下さいまし」喜「何んだい藤助、村の騷ぎと云ふのは……」藤「何あにね、此の天龍川が海へ流込まうと云ふ川口から二町程上の、避難が淵に一匹の主が棲んで居て、此の主が時々村方へ害を致します、村の若い娘や小供を大變好きまして、其の淵の近所を小供や娘が通ると實に危險でございます、處で每年子供二人に娘二人を村で祭禮の日に其の主へ差出す例になつて居ります、明日は矢張祭禮なので吉右衛門の倅二人、手前共の別家の娘二人を生贄として川の淵へ連れて參るのでございます、村方の者が大勢鉦や大鼓で送つて居つて椎の木の下の川邊に置いて歸つて來ます、すると何者とも知れない大きな怪物がポカリ水の上へ浮いて來て、一人づゝ其の子供を喰ひますのださうで、何しろ子供の親達は二三日前から泣き明して居ります」喜「何ん、馬鹿〱しい、怪物などに人間の子供を取られて堪るものか、俺が退治てやらう」藤「何う致しまして萬一仕損じでもなさいますと忽ち大水が出て村の田も畑も一面の海となつてしまいます、先日も立派なお武士が俺が退治てやらふと仰しやつて、川邊へ往くなりパックリ飲まれてしまつた、何んでも餘程息の強い怪物と見ゑます」喜「何あに高の知れたる魚類の年を經たものであらう」藤「何んでも水中に棲んで居て引息が强いから、蛙の怪物であらふと云ふ評判でございます、夫れから名高い坊さんも御出でになつて、俺の法力で退治てやらうと仰しやつて川邊で一心不亂に念佛を唱へて居る處をパクリ喰はれてしまつた、何んな豪い方でも側へ往けば忽ち怪物の引く息でパクリと呑れてしまいます」

京城新報

統監東上の要務

曾禰統監は來一月初旬を以て東上せらる可しと傳ふ。余輩は平素子爵の一擧一動に關し紛りに喙を挿むものに非ずと雖ども、今時の東上は聊か意味あるものと信ずるが故に、之に向つて一言なき能はず。

統監が帝國議會開會中に東上するは、伊藤公時代よりの慣例にして、議會に對し政府に向ひ韓半島に關する豫算其他に就て或は說明を與へ或は答辨を爲すは、保護政治の責任者たる統監の當に爲すべき職務なりとす。殊に內閣に命令し或は政友會を以て殆ど命令的に自家の意見を議會に行はしめたる伊藤公と異なり、殆ど內閣の命に據て行動する曾禰統監に在ては自家の立てたる計劃及其有する意見を貫かんが爲に、必ずや躬親ら出馬せざる可らざる事たり然れども唯た叙上の理由なるのみならんには、京城の政界の今日の如く動搖せる際に當て万事を後にして東上するが如きは決して策の得たるものに非ざるは子爵と雖ども豈に之を知らざるの理あらんや。余輩は子爵今時の東上の理由の他に在て存するを信ずるもの也韓半島に對する我廟謨の既に決定せられたるものあるは我政府及統監の屢々言明せる所なりと雖ども、幷は故伊藤公の自己本位より割り出されたるものにして今日尚之を踏襲せざる可からざるや否やは一の疑問に屬す。今日の半島は前統監時代の半島に非ず、我國上下の半島に對する思考の異なりたると同時に韓民上下の思考も亦た大に異なりたるが如し。隨て從前決定せられたる廟謨も亦た株守せらる可きものにあらざるは最も見易き道理にして、曾禰統監は必ずや半島の現狀を陛下に奏し閣僚と俱に協商する所無かる可からず。而して這は統監東上の要務の重要事項の一たるを失はず。然れども今日の如き政界動搖の際にも拘らず、子爵をして東上を餘儀なくせしむるの最大要務は統監更迭問題即ち自家更迭問題ならずんば非ず。子爵職を統監に奉じてより僅に四閱月にして早くも統監更迭の說は傳はりぬ。是子爵の健康の甚だ宜しからずと云ふに基因するものゝ如し。而して東都に於て早くも其後任を覗ひ自ら之に擬して運動を試むる者三人ありと傳ふ。子爵は遂に自ら起て其の運動を防止すると同時に三人者をして斷念せしむるの策を廻らさゞるべからざるに至れり。是實に子爵の萬事を捨てゝ自ら東上せざるべからざる最大要務たり。余輩は未だ子爵の健康果して宜敷からざるや否やを詳にせずと雖ども、就職僅に一年にも滿たずして職を去るが如きは其不幸啻に子爵其人の上に止まるのみに非ずして實に日韓關係上の一大不幸ならずとせず。余輩は子爵が此難問題に對し如何なる解決を與ふべきやを凝視し轉た同情の念に驅らるゝを感ずるものなり。

東京電報

▲臺灣の海底電線　臺灣總督府にては同島內地間の海底電線復舊工事費二百五十萬圓を追加豫算として計上したるが閣議に於ても可決すべし（十二日）

▲合邦問題と世論　合邦問題の眞相漸く判明す新聞の論調も一變し統監攻擊の聲漸く盛んなり

▲藏相の日銀臨檢　今十三日桂大藏大臣は日本銀行に臨檢し總裁の案內にて營業狀態を詳細に調査す（十三日）

▲各政派の交涉會　政友會、憲政本黨、大同俱樂部、又新會各派の交涉會を開き衆議院事務局より提出せる左の案件を審議す（同上）
一、議員資格に關する改正案
一、衆議院議員選擧法中改正
一、議院法改正の件

▲海相農相の參內　齋藤海軍大臣及大浦農商務大臣は昨日參內天機を奉伺したり（同上）

▲政府と地租輕減　政府にても地租輕減實行に決したるが其步合及期日は確定せざるも多分四十四年度より實施すべき方針なりと

▲日露鐵道連絡會議　今春露都にて開催せし日露鐵道連絡未了案件を協定すべく露國より第二回會議開催を通知し來りたるが我政府も同意し且我希望に依り今回は大連にて開かるべし

▲稅制整理の結果　稅制整理の結果減額せらるべき總額は九百十七萬圓にて內所得稅四百五十万圓砂糖稅二百万圓毛織物稅一百万圓（一割五分の課率を五分減にて一割となす）通行稅一百萬圓酒造稅六十七萬圓（工業用酒精は三箇月延期す）等重なるものにて尙は營業稅は四十四年度より百五十万圓を減せしむ

▲相撲古式の臺覽　古式相撲を催し各皇族宮殿下の御臺覽に供する爲め一月相撲は一日延期して十一日擧行の事に決定せり（同上）

▲對韓問題の演說會　今十三日午後一時より朝鮮問題同志會の政談大演說會を錦輝館に開く聽衆三千非常の盛會なりき（同上）

▲對韓同志會の決議　對韓同志會政談演說會は別電の如くなるが開會前同志會を開き決議文を決議し演說會場に於て是を發表せる小川平吉氏以下熱心演說を試み一進會の行動と同志會の根本的解決を希望する意志とは全然相關せざるものゝ如く大に聽衆の注意を喚起せり（同上）

▲又進會代議士會　又新會は幹事山口、大竹、阪本の三氏不在中にて島津幹事は在監中なるを以て大竹氏の歸京を待ち十七八日頃代議士會を開くべし（同上）

北京電報

▲清國海軍の復興　清國政府は海軍復興の爲め來年度より海軍學生を日本砲術學校に入學せしめ其他英、米、獨、佛等へも留學生を派遣するに決定したり（十三日發）

歐州電報

▲日露衝突說の否定　露國は公然日露間に於て毫も衝突を生じたることなく故に之に關する諸說は揑造なりと報せり（十三日）

▲露后不例と否定　露宮廷に接近しつゝあるダルミスタット新聞は公然露國皇后の御不例說を揑造なりと否定せり（同上）

▲露國と達賴喇嘛　露國は半官的に露國政府と達賴喇嘛との間に秘密條約締結せりとの上海通信を否定せり（同上）

雜報

漢城衛生會の豫算

漢城衛生會は明十五日警視廳に評議員會を召集し隆熙四年度豫算を付議する由なるが其豫算案左の如し

收入

總收入	一九二、四六七、五八〇
內譯	
諸收入	一〇二、三四六、〇八〇
雜收入	三、五二〇、〇〇〇
補助金	六四、六六三、五〇〇
繰越金	二一、九三八、〇〇〇

支出

總支出	一九〇、四六七、五九〇
內譯	
廳費	二、一七五、五〇〇
俸給	一八、五七三、三〇〇
馬匹費	二三、三三二、七八〇
機具費	一六、八三四、〇〇〇
掃穢費	一二三、九九七、〇〇〇
修繕費	二、五五五、〇〇〇
豫備費	三、〇〇〇、〇〇〇

にして收入殘額二千圓は共同便所十個所新設費として臨時部に計上せり右の內日本居留民及日本官衙の負擔額豫算は居留民二萬七千三百六十五圓七十六錢日本官衙五百〇八十六圓八十錢なるが該豫算は京城居留民團との契約により決定する筈なれば尙は未定なる由

政友會の合邦觀

一進會の合邦論に對し政友會の一領袖は曰く一進會は所謂日本黨なれば其合邦論に付いては大に同情を表したきも內部の消息を窺ふときは畢竟李完用內閣を倒して自ら取つて代らんとする者と斯る言動を爲さしめて其間に乘じて私利を謀らんとする小策士の煽動に出でたるものなり合邦論は伊藤公の素志を實行するものと稱するも伊藤公の靈は斯る誠意なき言動は必ず排斥すべし伊藤公をして犬死せしむると否とは我政府と統監の行動如何に在り若し爲すなきに於ては政友會は奮然蹶起大に其責任を問ふべし今は只其施設行動の如何を監視し居るのみ一進會今回の言動には毫も重きを措かず云々

日韓官吏共通取扱

韓國官吏たる者を本邦官吏と共通の取扱ひを爲すに內定せるは既記の如くなるが今其內容を聞に左如し

（一）官吏の任用法を一にすること
（二）官等及俸給を同一とする事
（三）日韓孰れの政府より轉任するも同一の官等を以て任用する事
（四）日韓何れの政府に官吏たるも其在官年數を通算して恩給年限を算定する事
（五）其他日韓官吏待遇を同一にする事

右の結果韓國に於ける高等官三等の日本人は本邦にても同官等に通用し在官年數も通算せらるゝ譯にて在韓官吏の俸給は現時より低減さるゝも加俸は臺灣、樺太に於けると同樣なるべし

豫算查定の終了

韓國政府來年度歲入歲出總豫算案は過日來荒井度支部次官及豫算決算課長等の手許にて查定兼行にて查定中なりしが愈々昨日を以て查定を終了したりと

●舊白銅貨出張交換

舊白銅貨の公納使用期限は愈々本月末日限りとなり之れが爲めに度支部は特に吏員を各道に派出し努めて其回收を圖る由なるが今其方法を畧記せんに出張員は出發前中央金庫より交換基金を受取り置き豫定の期日と順路を前進しつゝ一般人民に對し舊白銅貨は明年一月已降一切使用する事能はず又一の地金としても其價格は僅かに葉錢一枚位に過ぎざるを以て此機を逸せず交換を申出づ可きを懇諭し沿道各郡守面長等は出張員と相應じて交換又は買上げに就き充分の便宜を講じ回收舊貨は嚴封せる袋に蒐めて回送又は途中の取扱銀行に托し預證書を徵し歸任の上直ちに韓國銀行へ持參し精算を爲すものとす一般人民は當局者の周到なる此注意に對し進んで交換又は買上に應ずべき也

●金融組合の諮問會

農商工部農事技術官會議に參會せる地方金融組合員の來京を機とし去る十一日度支部に於ける同諮問會を催したり其諮問事項は左の如し

一、農業技手配置後に於ける產業に對する施設方法如何
二、監督田及試作田實行の狀況如何
三、農家の副業として獎勵すべき產業少なからざるべし之に對する所見如何
四、地方產業の興起上施設せんとする事項並に施設しつゝある事項
五、產業興起上の調查に關しては如何なる方法を採りつゝある哉
六、農工資金放資を獎勵する方法
七、農工資金使途監督の方法
八、技術官會議により得たる事項

尙は終會の後各員見學の爲め京城附近の農事試驗場を巡覽せしめたりしと

●國民演說會の閉鎖

閔泳韶を會長とせる國民演說會は昨十三日來鍾路なる商業會議所の事務所を閉鎖したるが其のことに出でたる理由は李總理が曾禰統監より國民演說會等を使嗾し濫りに民心を動搖せしむるを詰責せられたるに依るものなりと

●統監の技術官引見

曾禰統監は十二日午前十時半より統監邸に於て農商工部に於る技術官會議に出席せる各技術官金融組合技手農工銀行技手を引見し一場の訓示ありたる後茶菓を饗せられ一同は正午退出したり

●國民謝罪團の解散

國民謝罪團は過般團覺社に於ける國民演說會の際鄭顯撟は同團を目して第二の安重根なりと罵倒したるより各自惰氣と嫌惡の念を生じ全道より入京中の團員九十餘名は夫れ〲歸國したりと

●統監邸の大臣會議

今十四日は統監邸大臣會議の定例日なるが同會に於て來年度韓國豫算を審議する豫定なりしも別記度支部の查定を終れるも豫算の印刷間に逢はざる爲本日は普通政務を議し豫算を議せざる由

●押收せし聲明書數

治安警察法に依り警視廳に於て押收せし聲明書數は一進會の分三千、國民演說會の分七千、尙洞基督敎會の一進會攻擊の分約六千、都合一萬六千なりと

●京城教育會の講話

京城敎育會主催となり兼て朝鮮內地視察中なりし荻野博士を招聘し朝鮮の習俗に關する一場の講話を請ふ由なるが時日並に場所等は目下交涉中なりと

●農林講習所の維持

平壤農林講習所は生徒五十名あり目下熱心講習中なるが同所は從來寄附金にて經營し來りしが來年度迄之にて繼續し明後年度より地方費により維持の筈

●伊藤公追悼會執行

總理大臣李完用氏以下各大臣等は一昨十二日東大門外永同寺に會集して故伊藤公爵の追悼會を執行したりと云ふ

●平壤警察の開署式

平壤警察署は既報の如く昨十三日落成開署式擧行せし筈なるが中野警務課長は臨場の爲め大邱より平壤へ赴きたり

●訓練要目製本頒布

各學校敎官會議に附議せし重要案件を一纏めとし訓練要目として印刷中なるが製本次第學部より各道へ頒布する筈

●燈臺巡視船の歸港

燈臺巡視船光濟號は一昨十二日午後五時仁川に着港せしが同艦にて北韓地方視察中なりし嶋燈臺局長は歸任せり

●金牌を贈與せらる

平壤農事試驗場は靜岡に開催の東洋輪出品共進會に大豆出品し金牌授與さる

●民長副會頭出張

仁川岩崎民長は今十四日出發港灣調查の爲め神戶橫濱に出張する筈なりしも都合に依り延期し來る十七日頃靑木商業會議所副會頭と共に出發する事に變更したりと云ふ

●高度相の還曆宴

度支部大臣高永喜氏は本年六十一歲に相當するを以て來る十四日還曆の宴を張るべしと云ふ

●記者團の忘年會

在京城記者團は來る十七日午後六時より花月樓に於て例年の通り忘年會を開催する筈なりと

●領事逝去と弔旗

統監府及び各國領事は伊國領事の逝去を悼み昨十三日は孰れも半旗を揭げて弔意を表せり

月尾橋の通行止

仁川の一名物たる月尾島に通ずる月尾橋は諸處破損の個所あり通行危險なれば十三日限り同橋通行を嚴禁する旨龍山鐵道廳より仁川民團に通知ありたり

●韓國產種牛の配付

南韓種牛改良に資する爲め曩に原島畜產課長は平安南道に出張の上購入したる韓國種牛の中十九頭は一昨十二日夜龍山に到着せしが昨十三日朝大邱、釜山、馬山の各地に向け輸送したりと

●平壤土木下水工事

平壤に於ける土木下水工事費は二十八萬圓にして五箇年繼續事業として經營する由なるが其內十二萬圓は同民團及地方費より補助することに決し殘餘の金額は國庫の補助を仰ぐに至るべし

●農產技術官の退京

今回農商工部に開かれたる技術官會議に出席したる各技術官及金融組合技手農工銀行技手は會議終了したるを以て今明日中各任地に向け歸途に就く筈

●明石參謀長の歸任

兇漢安應七取調べの爲め旅順へ出張中なりし明石參謀長は一昨十二日午後八時三十分龍山着列車にて歸任したりと

●趙農相の統監訪問

趙農相は十二日午後五時李總理を訪問して密談數刻に及び夫れより曾禰統監を訪ひて具申する處ありたりといふ

●種苗場長の打合會

十二日午後農商工部に於て會計課農務局の各主任は技術官會議出席の各種苗場長と種々事務上の打合をなしたりと

●大久保大將の歸任

東上中なりし大久保軍司令官は十三日午後八時十分南大門着歸任せし筈なり

●參謀長の統監訪問

明石參謀長は十三日曾禰統監を訪問し安重根取調べ事件に就き報告したりと

●吉原副總裁の歸京

東上中なりし同氏は十三日夜歸京せり

●小杉事務官渡日　學部第二課小杉事務官は物品購入其他事務打合せの要務を帶び十四日東上三週間滯在の豫定

●二工學士の退京　入京中なりし工學士前川益次、同神田禮次の兩氏は一昨十二日出發新安州へ向ひ出發したり

●所長檢事長入京　咸興地方裁判所長判事岩本以明氏、同檢事長鄕津友彌氏は一昨十二日入京天眞樓へ投宿せり

●平渡書記官歸任　平壤に出張中なりし內部平渡書記官は十三日歸任せり

●山形分隊長歸任　江原道出張中の山形憲兵分隊長は十五日歸京の豫定也

●佐藤參謀長歸任　六師團參謀長佐藤大佐十二日午前八時半釜山より歸任

●滿日記者の來京　滿洲日々新聞記者佐藤武雄氏は十二日入京原金に投宿

●水間少佐の入京　憲兵少佐水間春明氏は十二日入京浦尾旅館へ投宿せり

●大庭貫一氏來着　平壤居留民團長の同氏は十二日入京浦尾旅館へ投宿す

●蠣山事務官退城　關東都督府事務官蠣山長次郎氏は十二日平壤へ向へり

●園部中尉の出發　陸軍步兵中尉園部和一郎氏は十二日出發新義州へ向ふ

●諏訪典獄の入京　咸興監獄典獄諏訪善太郎氏十二日入京三日月旅館投宿

●伊集院中佐入京　海軍中佐伊集院俊氏は十二日來京京城ホテルへ投宿す

●織田捷次氏入京　第一銀行員の同氏は十二日入京不知火旅館へ投宿せり

龍山通信（十三日 支局報）

▲本年最終の民會　來る二十日頃本年最終民會を開く議題は豫算更正外一二

▲新市街の協議會　一昨十二日夜京城龍山の有志者約二十名龍山新市街の料亭万長に會し新市街の發展策を講究したる結果一道路の修繕二溝渠の開通三橋梁の取撤げ四電車の急設五街區の要所三箇所に瓦斯燈設置外一二件を決議し委員として德久米藏、河田又藏、村井甚七、森嘉律藏、勝木辰吉、須々木權次郞氏外二名を選擧して其向々へ交涉せしむることゝしたり尙は一家賃低減二龍山停車場前經營急施三軍用地建物御限撤廢請願等に關し參會者一部の希望を遂しも結局決議するに至らざりしと

▲龍山印刷局近況　龍山なる度支部印刷局工場の新築成りしは既報の如し今や器械の据付けも了りて形容大に張れり而かも同局は嘗に圖案彫刻の技術に於て日本第一人の稱ある齋藤知三氏を聘し大發展を畫しつゝあり氏は三十餘年間東京印刷局に奉職し前年歐洲に出張して歸朝後病氣に罹り引退靜養中北京政府は氏を起して其印刷局に顧問たらしめんと交涉しつゝありしも這般度支部の招聘に應じて渡韓せりと云ふ面して東京印刷局にては氏の後任として西人を得んが爲め人撰中なるも久しく氏に代るべき技術家を發見するを得ずして困じ居る程なりとか以て氏の技術の如何に優秀なるやを知るに足らん氏は目下韓國銀行券の圖案彫刻中なるが來年度に發行さるべき同銀の兌換券も亦氏の圖案に成るべく目下技術員養成法等に就き畫案中なりといふされば同局が韓國政府印刷局として大に面目を起すは必ずや近き將來を期するを得ん因に同局歲入豫算は廿萬圓なるが現下既に少なからざる增收を得たりと

▲治外法權▼

合邦問題の眞相判明し曾禰統監批難の聲熾なりとの東電が來た、記者は同問題に關する統監の措置のドノ部分が批難に値せしやを詳知せずと雖も思ふに難者の言掛りは上奏書却下にあるならんか▲一進會が合邦に就て韓皇に宛てゝ出した上奏書は小供瞞見た樣なものだ、併し其實質は兎も角きこと韓皇に宛てた者であれを總理大臣たる李完用が如何致しましようかと持つて來た以上は之に何とか決定を與へねばならぬ與へた決定が却下である、而かも何として統監たるものが列國環視の中でアンナ突飛な上奏書を韓皇に達せしむることが出來よう▲一進會員如何に無智なりとは云へあの上奏書が無事に韓皇に達するとは始めから期待しまい、而かも期待しないでドーして出したかと云ふにソレには諸々の魂膽があるのである▲人の惡いのは一進會を先棒に使つて仕事をせんとする策士の連中である、彼等は上奏書に因つて曾禰統監に出來ない相談を持掛けたのである、統監は其相談を刎付けたのである、ソコで曾禰さん攻擊の新材料が玆に生れ出たのである▲合邦問題の眞相判明し曾禰統監批難の聲高しとの電報に因つて見ると策士連は愈々今度の新材料を利用して曾禰子攻擊を始めたものと見ゆる、油斷も隙もならぬ世の中とは云へ貧乏籤を引かせられた曾禰さんこそ好い面の皮でまた御病氣の外に一ト御苦勞增したものと云ふべしである。

●大邱の開署式詳報

去る十日午後二時大邱署にて新築落成式を開きたるが先づ是澤同署長の式辭あり續いて中野警務課長、朴觀察使、……祝辭朗讀あり終つて立食に移り餘興には擊劍の催ふしあり頗る盛會なりしと

●士林吏校の所有地

全北廿八郡中士林吏校の所有地如左

士林	四、八二〇	一七、九二六
吏校	六三六	二、七〇六

因みに士林は所謂兩班にして吏校は士族と平民との中間に居るものなりと

●避病院建築費附議

……會にて歲出歲入豫算に付評議し右歲出豫算剩餘金中より金五萬圓を避病院及消毒所建築費經費等に流用の件を附議し內部度支部兩大臣に認可を仰ぐ筈

●天氣豫報（自十三日午後六時至十四日午後六時）

北西の風晴

十二日（華氏）最高溫度 三一、八

……去る十日午後二時大邱署にて新築落成……り頗る盛會なりしと

●士林吏校の所有地 全北井入郡中士林吏校の所有地……土地を有せざる者……因みに士林は所謂兩班にして吏校は士族と平民との中間に居るものなり

●避病院建築費附議 十五日内部に於て開催する漢城府衞生……出張費剩餘金中より金五萬圓を避病院及消毒所建築費等に流用の件を附議し内部大臣に認可を仰ぐ筈

不景氣の聲(二)

…周旋屋の昨今…

茲に周旋屋といふのは人事周旋であつて一般の周旋ではない。暮れを控ねての其等の景氣は怎うである歟と南大門通の某口入屋を訪ふた。假小屋然としたる極く粗末な温突家屋に這入つて來意を通じた先づ藝娼妓仲居酌婦等の寫眞と數十枚も厚紙に貼つて掲げてあるのと汽車の時刻表とが或聯想を起さしめて目に付く。京城に人事周旋業者は其筋の許可を受けて營業してゐるのが**十八九軒**ある。此外**無免許**で警察の目を潜りて内々遣つてゐる者が**十人位**はあるとのことだ。而して同業者間には組合等の組織なく其周旋料の如きも各店共多少異にして居て非常に**紊亂**を極めてゐる相な。概して人事周旋屋は十一、二の二ヶ月間が年内を通じて一番奉公人の出入頻繁を極むる……收入の多き時季だが昨今は別して男女の**奉公人**は極はめて尠なく渠等の番頭所謂外交員なる者は毎日寒空に市中の料理屋飲食店等を驅け廻つて一人の傭主にも邂逅せず亦酌婦等の鞍替への注文の話もなく空しく歸つて來る樣な次第で昨今不景氣は**極度**に達してゐるとこぼしてゐた。韓國も地方は知らずだが京城の人事周旋料は内地のそれに比較して甚だ安いとのことだ。藝娼妓其他仲居酌婦等は別として商店の番頭とか下男下女等の一般奉公人を毎日少くとも二人以上周旋せなければ渠等は到底生活は出來ないのに本月になつてから未だ四五件しかなく家賃も二箇月も滯りて怎うも係うにも此頃の不景氣には遣り切れませぬと**愚痴の萬遍**だらりであつたが茲に注目すべきは京城は甚だ不景氣なるに拘らず地方特に**新義州**、**奉天**等地方から酌婦の周旋方を申込む者が少くない、これは例の**安奉線の工事中**だから工事請負業者や勞働者の多數入込みたるを以て一時の現象であながちこれを以て直ちに同地方の景氣を云々する事は出來ぬと思はれると附言してゐた。京城で一番古く且つ世間から知られて居る周旋業は民間役所前の立成合であるが、それすら昨今傭主や奉公人の注文は殆んど**皆無**と云ふ有樣で數名の外交員なる者と主人とは終日青息吐息で道の年の瀬を如何にして越さんものと向ふ鉢卷きの體たらくだから其他の同業者は推して知るべく年末の周旋業者の不景氣の程度も略ぼ窺ふ事が出來るので有

瀛船の行衛不明

▲仁川鎭南浦間に於て

仁川港を去る八日出帆して鎭南浦に向ひたる大阪商船會社所有瀛船**福州丸**は昨日に至るも未だに着港せず全く行衛不明にて何等の消息だに接せざるより若しや**遭難**したるにはあらずやとの懸念を起し關係者一同憂慮し居れるが聞く處に依れば同船は總噸數千四百七十噸にして今より五年前の造船に係り船材は鋼鐵にして堅牢なる事他に比類なき程なれば萬々遭難の虞なしとするも今に消息なきを以て見れば或は**舵機を損**じたる爲め應急修理に時日を要し居れるにや圖りがたければ昨十三日警備巡視船**光濟號**は**搜索の爲め急航**せり尚は同船の積荷は阪神地方より鎭南浦行の雜貨三百噸にして乘客は阪神より鎭南浦行六名及び仁川より同港行の乘客二名合計八名ありと云ふ

怪しき支那人の穴居

▲銃劍を以て巡査に向ふ

一昨十二日午前三時過ぎ銅峴分署勝田巡査が管内警邏中光熙門と西横との中間韓人木綿商家屋土壁側に人の出入するに足る穴の堀りあるを同巡査は不審に思ひ穴の内を檢査せんとせる折り柄**四人の支那人**は突然**穴**の**奥**より**顯**はれ出で内三人は**大刀**を携へ一人は**長銃**を持ちて同巡査に銃口を差向けて擬勢を示しつゝ四人共訓練院方面に向つて**逃走**せるを直ちに非常線を張りて警戒せしも遂に行衛不明となれりと云ふ

福州丸遭難別報

▲白翎島に於て難破す

大阪商船福州丸遭難に關し昨十三日午後大阪商船仁川支店に左の電報達せり

八日仁川を發せし福州丸は鎭南浦に至る中間白翎島にて難破し獨航の見込なし人命無事救助頼む

右に就き仁川同支店員等は本日午前七時光濟號に搭乘し遭難地に向ひし筈

ダイナマイトの爆發

▲家屋の破壞と重傷者

築忠壇居住請負業大野周造は同所新築中の親衞府官舍建築を請負ひてダイナマイト二十發を購入して温突内の机の下に保管し置きたるに一昨十二日午前十一時突然爆發して居合せる書記林辰一(三二)は面部膝部に重傷を受け家屋は大部分破壞したる騷ぎに銅峴分署丸岡巡査直ちに現場に出張して負傷者は大韓醫院に入院治療中

●洗濯屋の横領 原籍滋賀縣高島郡安曇村大字西萬木村十七番地當時京城曙町十三番戸居住平民洗濯業通稱中江勇七事中江勇造(三三)は本年三月頃より旭町一丁目に於て洗濯屋を初めたるが得意先の洗濯衣類數十點を入質とした るを南部署に探知せられ其當時は被害者の告訴もなく質受けして返濟せしかば事濟みたるも同人は其後曙町に移轉し去る六月より以前の洗濯及染替の注文を取り大坂に染替の注文をなすと詐りて得意先より預りたる物品花月の廿三點(價格約四百圓)を初めとして其他數十軒より委託を受けし衣類雜品價格五百圓余を質入又は賣却して悉く酒色に費消し居たるを被害者より嚴談を受け舊惡露見せんとせるを以て一昨日逃走して西部管内蓬來町十七番戸洗濯業生田富太郎方に潛伏せるを同人の行動監視中なりし南部署長野刑事の爲めに探知せられて本署に拘引し目下嚴重取調中なり

豫告

讀者諸君の好評を博したる講談「鎭西八郎」は愈々今一回を以て大團圓を告んとす、されば續いて連載するものは**邑井一**講談に係る

日本銘刀傳

にして我國知名の刀鍛冶多數の傳記を讀みたるもの波瀾頗る多く悲嬉交々至り蓋し近來の好讀物たるを失はず讀者請ふ今後の紙上に俟て

●伊公追弔會注意 今十四日午後七時擧行の伊藤公追弔會には參列者多數なるに依り主催者本部に於ては案内狀受領者以外の同伴者は會場の都合に依り一切入場を謝絶すべく又有功特別社員會員以外の招待員にして徽章佩用なき向は案内狀持參掛員に示さるべく且つ當日は追弔の式を擧げたる後伊藤公に關係ある活動寫眞を觀覽せしめ直ちに散會する豫定にて多數參會者の事とて別に接待等の用意なしと

●天氣豫報(自十三日午後六時至十四日午後六時)

北西の風晴

●十二日(華氏) 最高溫度 三一、八 最低溫度 一二、二

●韓老人の凍死 昨日午前七時頃仁川万石町に凍死韓人ある旨訴出でに接し仁川署より篠村部長出張檢視せしが年齡は五十歲とも思しく全く夜來の酷寒の爲め凍死したる者と判明したれど姓名等知る由もなければ取敢へず面議所に引渡し假埋葬に附せりと

●聯合賣出の景氣 今回擧行の當地居留地各商店の聯合大賣出しは多額の懸賞付と聯合の信用とに依り非常の人氣を集めさなきだに歲末の市況に一層の活氣を添へつゝあり而して本月二十日後となれば各官衙は年末賞與下給せらるゝを以て更に一層の好人氣を呈すべしと

●仁川花柳便り 仁川花柳界の近況を聞くに相も變らず寥寂を極め居れり藝妓の數の次第に減少するも又是非なき事なり▲淺岡の梅奴は既に年期滿ちたれど副借の殘り居る處から自前にて稼ぎ居れど一向面白からず穀物協會の某を二人となきた客として數へ居たるも相手も名高き借金持ちなれば節季迫つて如何共する能はず兎や角と思案中へ此程本紙に掲載したる例の駄々羅大盡足立文雄が舞ひ込みたる爲め好い鳥御ざんなれと早速枕の塵を拂ひ散々樂まれた揚句大盡は警察署へ一寸來いから六月の懲役となりしには流石の梅奴も開いた口が塞がらず三日間は床に伏して頭も上がらざりしとは憐れ氣の毒▲同樓の君江も今は自前で稼いで居る有名な藝無しであつたが近來メッキリ腕を上げたり、是れも花月へ替はつた勝利姐さんのお蔭だと嬉んで居る▲屢々評判になつた、八千代は名妓八千代と名こそ同じけれ藝に至つては殆どゼロなり但し芝居は一寸出來る▲一富士の清次は近々海岸のハイカラと結婚するとは目出度し▲鱗の笑子は京城井門の雛子と義姉妹の約を結んで居る由なるが一つの方でも偶然姉妹となつて居るとか双方共悟れりや否や(小雀)

●醉つ拂ひの說論 仁川猫島松前屋方居住の阿手治太衞(三九)と云ふは元大有丸の揖取を爲し居たる者なるが一昨日午後十一時頃何處にて飲酒せしが呂律の廻らぬ程に醉拂ひて仁川海岸町の高杉廻漕店に至り譯の分らぬ譏托を列べて家人に迷惑を懸け遂には亂暴さへ働くにぞ其旨仁川署に訴出で巡査出張說論の上放還したりとは困り果てたる醉泥かな

●飯椀を横領した男 長崎縣生れの浦田末吉(三一)と云ふは先月下旬仁川龍洞の飲食店李善鄕方に至りて飲食し其代金七十五錢及び飯椀(此價格一圓五十錢)を渡し貸せよとばかり云ひて立出でたる儘行衛不明となりたるが一昨日同人の姿を見るや其筋に訴出で警官出張取調べたるに右飯椀は花町二丁目の某に二十五錢にて賣却したりと自白せしにぞ横領犯として本署に引致取調中なりと

●明治町の浪花館 連夜大入をしめつゝある同館本日の讀物左の如し

大久保巡遊記(虎眉)二ツ蝶々郞仇討(若之助)播州小寺大評定 一心小金ヶ原仇討(福丸)戀のピストル(今勝) 三味線 吉川里子、京山夏女

各地の新聞

▲第四師團長を襲ふ 去る六日午後二時頃大阪府廳に知事を殺さんと敎へ圖たる東區森の宮東の町一刀流の達人西田與三郎(七二)は十日午後土屋師團長官邸に乘込み巡査警部等の制止說諭を背ざるより拘留八日に處せられたり

▲九條署舍の燒失 十日午前八時四十分大阪西區九條警察署小使室士管烟突より出火同署廳舍全部を燒失し同十時鎭火したるが消防夫平井龜太郎は五重の火見櫓より落ちて火傷を負ひたりと損害總額約二萬圓と註せらる

▲義捐品を横領す 大阪北區の大火罹災者に同情し各所より送り來れる寄贈品の多くを金に代へて遊興費に充て居たる人非人中左の三名は罪狀顯著なるを以て地方裁判所檢事局に召喚せられ去る九日附を以て免職せられたるが尚は多數者の拘引を見るべしと云ふ憎むべき犯罪と云ふべし

原籍石川縣江沼郡大聖寺町大字耳聞山八十八番地當時東區十二軒町二十番地士族 元大阪市役所檢査係主任書記 伊藤晃(三七)

原籍大坂府下北河內郡門眞村大字門眞八十二番地當時北區本庄仲の町四百四十四番地の四 元大坂市役所檢査係書記 安藤隆造(四一)

原籍和歌山市本寺町一丁目十四番地當時大坂府下東成郡住吉村大字上の町百六十二番地 元大阪市役所檢査係書記 田村重成(三八)

▲燐寸工場の椿事 九日午後二時十分神戸市筒井町五十二番播摩燐寸第一工場所屬男職工光本滿藏其他の職工が仕上げたる軸木を箱詰場へ運搬中俄然發火したる爲め左記七名は重輕傷を負ひたりと 重傷者筒井町光本滿藏(十四)▲同西村たけ(五三)▲輕傷者筒井町北田範二郎(十四)▲同西村じう(十八)▲同山田作次(三二)▲同西村その(二七)同前田しま(八十)

▲淺間山の大噴火 信州と上州の境に聳ゆる淺間山は七日午後七時十五分頃百雷一時に落ちて乾坤爲に覆らんかと思はるゝ凄まじき音響と共に噴煙物になら天に沖する數百丈の大火柱は譬へがたなき恐しき唸りを生じ噴火口の附近一帶は炎々たる猛火の原と化し一抱へ餘もあるべき熔岩が手毬の如く宙を飛びては彩間や田野に落下する狀物凄くも亦恐しく七時半よりは一層激烈となりて雨のやうに降り注ぎ山麓の芝草に燃え移りて一面の大火事となり之に連なる國有山林も危ふしと見れば輕井澤分署の星野、片桐兩巡査は五十名の消防夫を指揮して一生懸命に消火に努め八日午前八時に及びて火の手を遮ぎり辛くも延燒を防ぎたり、人畜の死傷は左までならざるも目下の所未詳なるが山麓なる東長倉、西長倉、追分、畜掛、御代田等の各村の慘狀見るに堪ねず

吉凶鏡

本町五丁目 三一館判斷

十二月十四日舊十一月二日 九紫赤口戊申なる△一白● 障害失錯生じ易し愼重に事を處すべし依賴相談等効なし△二黑● 一轉進の日なり換樣替方針替計畫替等吉△三碧● 音信に間違起り易し 順和の日なり共同組合婚約爭妙盛誇潤色を戒しむ△四綠● 家庭内に小驚又は小累あり其他康寧なり△五黃● 進達の日新事變更妨げなし人に懇願に逢ひ迷惑あり△六白● 新事見合せの事但し改築土木治金の事に用ひては吉△七赤● 新事及復雜の事之を避くべし効なし遺失紛失防ぐべし△八白● 誘惑防ぐべし其他概して盛運なり△九紫● 萬事謹愼を要す旅行出帆見合すべし

▲無料紹介欄▼

人事部

●徒弟入用 十三歳より十五六歳迄五六名採用 明治町一丁目 糸山裁縫所

●求職 昨今渡韓の青年拾九歳事務員又は商家に雇れたし氏名在社(四九〇)

●望勤務 病院又は醫院藥局へ ケーチー生(四九三)

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と廻縁二階六疊二間廻縁井戸物置湯取付家賃両談 氏名在社(四七八)

●貸家 北部齊洞廿九の四貸家あり宮内府其他韓國御各官衙には便益の地希望に應じ賠渡上候

●貸家 京城吉野町間數四間湯殿付官吏又は會社員向希望者は電七四番へ

●貸家 吉野町日本式に改築三間押入一間半水道風呂炊事場あり家賃十一圓 氏名在社(四九五)